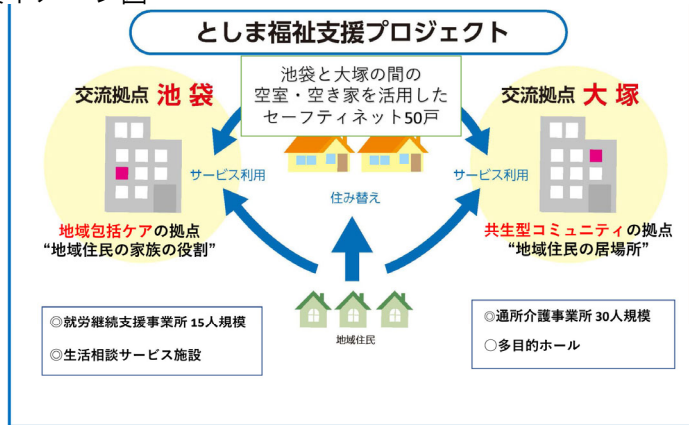


空き家を活用した「としま福祉支援プロジェクト」

地域コミュニティが希薄化する都心部で多世代共生型住宅を整備。住宅居住者と地域住民が協働で運営等を行い、地域コミュニティの再生・活性化を図る。

東京都心部では、高齢化、孤独死、生活困窮者の増加等の課題がある。本提案は、都心部でも単身世帯の割合が多く、空き家が多い東京豊島区を対象に、地域の空き事務所を活用し「交流拠点」の整備、点在する空き家を活用し、セーフティネット住宅の整備を行い、共生型コミュニティと地域包括ケアの仕組みの構築を目指す。

事業イメージ図

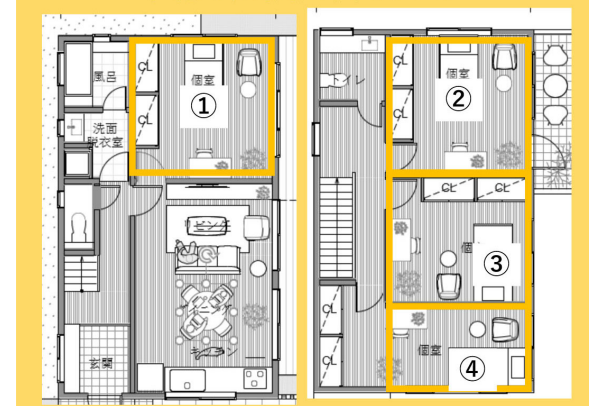


交流拠点「池袋」の整備・運用イメージ

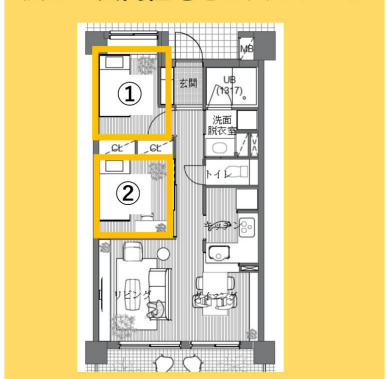


セーフティネット住宅の整備

戸建て住宅を4人でシェア



広めの共同住宅を2人でシェア



事業概要

23区へ展開モデルの構築

5

代表提案者	一般社団法人コミュニティネットワーク協会
共同提案者	株式会社エンジョイワークス、特定非営利活動法人ワーカーズコープ
事業実施場所	東京都豊島区
事業実施内容	交流拠点(2施設:事業所、多目的ホール、コアワーキングスペース等)、セーフティネット住宅の整備(10戸)、セミナー、市民参加型イベントの開催、コンセプトブックの作成等
事業実施期間	令和2年2月～令和3年3月

評価委員会での評価内容

- 地域の居住支援協議会と連携したセーフティネット住宅を供給する提案は、地域課題への解決方策として評価でき、他の地域へ普及できる可能性も見込める。
- 計画目標の空き家を活用したセーフティネット住宅の確保については、適宜、計画の見直し等を行い、弾力的な事業運営を行う必要がある。

- 就労継続支援事業所(15人規模)を、障がい者とともに、高齢者、生活困窮ひきこもり等の居場所と雇用創出し、立を支援する。
- 生活相談サービス施設を整備。居住支援法人と連携し、子ども、ひきこもり、障がい者、高齢者等のワンストップの生活相談及び安否確認、見守り、24時間365日体制で緊急対応保証人、死亡時の対応等、家族の役割を担う。